

【Ⅳ. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	・大分大学医学部に設置した寄附講座において、特許を1件申請した。 ・病院・介護現場と企業とのマッチング会の開催等により、平成24年度中に、新たに医療機器製造業許可を5社が取得した。
②	・これまでの研究で明らかとなった理論・技術を用い、県内の中小企業が新たな製品の開発に着手し、試作品を製作した。
③	・循環型環境産業創出事業により、県内産業廃棄物の再生利用に係る事業化を支援し、マテリアルリサイクル及びサーマルリサイクルの推進が図られた。(2件)
④	・ビジネスプラングランプリ受賞企業は累計40社となり、ベンチャーの気運が着実に高まった。また、受賞企業の半数以上は売上又は雇用を増加させており、企業の成長につながっている。 ・中小企業支援機関、金融機関等と連携して創業支援に取り組んだ結果、平成24年度に304件の創業を実現した。

【Ⅴ. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(24年度事業)	事業コスト(千円)	25年度の実施状況	主要な施策の成果掲載頁
①	東九州地域医療産業拠点推進事業	41,466	継続	131
	医療関連産業参入促進事業	27,339	継続	132
②	次世代電磁力応用技術開発事業	24,637	終了	133
③	循環型環境産業創出事業	16,062	継続	130
④	おおいた創業促進事業	8,861	継続	129

【Ⅵ. 施策に対する意見・提言】

○東九州メディカルバレー構想県別推進会議 (H24.7)
 ・医療機器メーカーのOBの活用等のように人材的なフォローをお願いしたい。
 ・医療機器の海外展開にあたっては、日本に友好的な国に対し、早く情報提供する必要がある。

【Ⅶ. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
B	<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業の医療関連産業への参入を支援することで、県内の医療関連産業の集積を進め、その拠点化を図る。 ・海外の医療技術人材の育成に向けた情報発信を行っていくことで、日本の医療システム・医療機器を海外に展開していく。 ・産業科学技術センター内に電磁力担当チームを設置し、今後の電磁応用技術開発の推進に当たっていく。 ・産業廃棄物を地域資源として活用する循環型環境産業を育成するため、マテリアルリサイクルなど産業廃棄物の再生利用に係る事業化の支援を行う。 ・ビジネスプラングランプリ受賞企業に経営支援、販路開拓のコーディネーターを配置するなど、フォローアップや支援を強化する。 ・創業の裾野の更なる拡大のため、新たに地方での短期創業セミナーを開催する。